



第83回

私のスケッチブック

## 「アヴィニョンの橋の上で…」

アヴィニョン／プロヴァンス（フランス）



アヴィニョンまでは高速鉄道LGV・地中海線で結ばれ、パリ・リヨン駅から2時間半強で到着します。

主要駅は、アヴィニョン中央駅とTGV駅の2つありますから迷わない事です。私も過去二度も苦い経験があり、いつも時間に余裕を持って移動していましたが、何となく実害はないのですが…あれっ!?! 乗車予定の列車表示が無いのですから、慌てますよ。

この街は、1305年にボルドー大司教のクレメンス5世が法王に就任しますが、ローマにも戻らず…教皇庁をアヴィニョンに移動してしまいます。いわゆる、「アヴィニョンの捕囚」と呼ばれる時代が70年近く続きます。教皇庁とサン・ベネゼ橋を描こうとすると、ロース川の対岸から描く事になります。何度目かに現地で知り合った大塚修一さんが案内して下さいました。

やはりプロヴァンスを訪れると玄関口は、アヴィニョン。

中央駅からプラタナスの並木道を教皇宮殿に向かうと様々な可愛いお店が並んでいます。特にパティスリーとCaféは素晴らしいです。旧法王庁前広場に面したPope（教皇）の名前を冠したホテルを常宿にしていたから、朝の散歩がゴシック宮殿の庭先となり贅沢の極み、そしてついでにサン・ベネゼ橋まで散歩。この橋は、ロース川の度重なる氾濫で何度も崩壊し…最後は再建を諦めて川の途中で切れています。世界的に有名な童謡「アヴィニョンの橋の上で」の舞台です。

アヴィニョンは、恐らく避寒地なのでしょう。人口10万人程の街ですが、世界のトップ・ブランドの直営店が並んでいます。そして、女性達のハートを射止めた「ロクシタン」のあるロクシタニの谷へは、駅前から工場見学の観光バスが出ていました。流石に観光地！屋台も数多く立ち並んでいますから食道楽にも堪らない街です。

延原 慎吾



1946年、岡山県生まれ。現在、東京都内在住。物流会社を経営するかたわら欧州物流コンサルタントとして渡欧の際、歴史的建造物及び風景の美しさに魅せられて水彩画を始める。  
2017年開催「第68回 全国カレンダー展」に9度目の入選を果たし、その実力を発揮する。  
<http://www.urban.ne.jp/home/nobu36>

水彩画 延原

検索